

都市社会共生学科

“The Soul selects her own Society.”

(エミリー・ディキンソン)

「探究者の社会では、人間は考えている。

探究者としての人間 (…) は無数の問題が出来する可能性の海に投げられるのだ」

(マイケル・ポラニー 『暗黙知の次元』)

幾多の異質な存在が、無数の場面で遭遇し、混在し、衝突し、闘争し、変容し、共生しようとしているこの世界は、ひとつの組織や国家、さらには人種・人類という単位を超えて惑星の表面に広がっています。都市社会は人類の視座から構築された、この世界の魅力的な縮図であると同時に、国家・技術・科学・文化などによって、世界を縮減・動員・制御・支配しようとする（絶えず破局や失敗と隣り合わせの）人間的・社会的・文化的な権力・統治空間でもあります。人類の活動が惑星の環境・生態系に大規模で不可逆な影響を及ぼす近現代の「人新世」では、特にこうした都市社会が肥大化している…ならば、都市社会それ自体が人類を含む惑星の現在・未来にとって、非常に重要な問題（すなわち思考・検証・創造し直すべき大事な課題）だと言えるでしょう。

現代の都市社会には、政治・経済的環境の相違や価値観・文化的背景の相違などから生じる問題も多々あります。しかし、そこでは多様性それ自体が問題なのではありません。経済格差や民族差別や性差別など支配的・一元的な価値体系によって生じた、(固定化される) 相違・階層関係が問題ではないでしょうか。多様性それ自体は世界の条件なのですから。肥大化する都市社会を口実に、世界の多様性を一元的に縮減・動員・制御・支配しようとする人間的・社会的・文化的な視座や権力・統治の原理を、わたしたちは歴史的・哲学的に、そして芸術や社会開発などの実践活動を通して、問い直す必要があります。そして世界の縮図としての都市社会から世界の多様性をもっと創造し、その多様性をさらに遭遇・変容・共生させる、すなわち世界の潜在力を増殖させることに向かわなければならない。この思索的かつ実践的なプロジェクトの過程と目標を、わたしたちは都市社会共生 (Urban and Social Collaboration: USC) と名づけます。

都市社会共生を掲げるこの学科は、人間を支配・統治・制御の対象 (労働力・消費者・兵力・国民・人口…) に閉じこめたうえで、国家・組織の道具 (「〇〇人材」…) に人間を整形するような、国家・組織従属の学科ではありえません。「単位取得」や「就職活動」だけのために、あるいは「世間の空気」や「近隣の人々の (暗黙の) 希望」のために、自分自身の感覚・感情・知性を硬直させたり、知的関心と経験の幅を狭めたりしないでください。知るべきこと、不思議なこと、驚くべきこと、不可解なこと、この世界で経験したいことは、本当にたくさんあります。ここでしか遭遇しない沢山の分野に、果敢に踏みこんでください。そのときみなさんは、都市社会共生をめぐる幅広く、奥深い知を探究していくための地図、そして「より可能性のある世界に開かれた都市社会」を思考・表現・展開していくための通路を、この学科の到るところで発見していくことでしょう。

I. 授業科目履修に関する事項

1. 履修基準（卒業要件）

都市社会共生学科を卒業するためには、次の諸条件を満たさなくてはなりません。

- (1) 下記の履修基準表に示す授業科目区分ごとに定められた単位数以上を修得し、合計で 124 単位以上を修得すること。
- (2) 卒業に必要な単位数の GPA が 2.0 以上であること。
- (3) 卒業研究の成果を提出し、審査に合格すること。

履修基準表（都市社会共生学科で修得すべき単位数一覧）

授業科目区分		修得すべき単位数		
全学教育科目	基礎科目	人文社会系科目	4 以上(※4)	
		自然科学系科目	4 以上(※4)	
	グローバル教育科目	選択(※4)		
	イノベーション教育科目	選択(※4)		
	健康スポーツ科目	0~2(※5)		
	外国語科目	英語科目	6 以上	12 以上
初修外国語科目		4 以上		
学部教育科目(※1)	学部共通科目(基幹知科目)	都市科学の基礎	4	
		グローバル・ローカル関連	(2 科目以上)	
		リスク共生関連	(2 科目以上)	
		イノベーション関連	(2 科目以上)	
	人文社会科学基礎演習	1		
	専門基礎科目	5		
	スタジオ科目	24		
	卒業研究関連科目	8		
	コモンズ科目	ベーシック科目	8 (※2)	
		アドバンス科目	16 (※3)	
演習科目(ローカル/グローバル科目)	14 以上	18 以上		
関連科目・インターンシップ科目・その他の科目	0~4			
			124 以上	

高度全学教育
指定科目から
4 以上(※4)

※1 学部教育科目のうち 2 単位以上は、学科が指定する英語を使用または英語のテキストを中心的に用いる英語関連科目を履修すること。

※2 「社会と共生の学び(社会学領域)」科目群から 4 単位以上を履修すること。

※3 「社会と共生の学び(社会学領域)」科目群から 8 単位以上を履修すること。

※4 高度全学教育指定科目として 3 年次以降に本学科が指定した基礎科目、グローバル教育科目及びイノベーション教育科目の中から 4 単位以上を履修すること。

※5 2 単位まで卒業に必要な単位として参入可能

※6 外国人留学生においては、日本語科目を外国語科目に代替できる。

2. 卒業研究について

(1) 卒業研究着手要件

卒業研究に着手するには、3 年以上在学し、全学教育科目および学部教育科目を合わせて 100 単位以上修得している必要があります。また、スタジオ科目 18 単位以上を修得していなければなりません。この要件を満たしていない場合は、卒業研究に着手できませんので、卒業が延期になります。

(2). 卒業研究の履修登録

卒業研究に着手する学生は、他の授業科目と同様に、前述の履修登録方法に従って履修登録を行わなければなりません。

授業科目「卒業研究」は4年次を対象に春学期と秋学期に開講されています。卒業研究に着手した学生は、「卒業研究題目届」を提出する学期、及び卒業研究の成果を提出する学期に履修登録を行い、合計4単位を修得する必要があります。

(3). 「卒業研究題目届」の提出

卒業研究に着手した学生は、指導教員の指導に従い卒業研究題目を決定し、学科が定めた期日（下表を参照）までに「卒業研究題目届」を都市科学部学務係に提出しなければなりません。届出がない場合は、卒業研究の単位が認められません。

卒業研究の成果を提出するにあたって、提出期限は期日（下表を参照）の16時10分とし、期日を過ぎたものは一切受理しません。詳細は掲示で確認してください。

	「卒業研究題目届」の提出期限	卒業研究の成果の提出期限
3月卒業の場合	同年度の6月末日 ^{***}	同年度の1月末日 ^{***}
9月卒業の場合	前年度の12月下旬 [*]	同年度の7月末日 ^{***}

^{*}冬季休業の開始の前日を期日とする。

^{***}土曜日または日曜日の場合は直前の金曜日とする。

3. 履修登録単位数の上限

履修できる単位数は、半期ごとに24単位までと上限が設定されているので、この枠内で行ってください。ただし、以下の科目群はこの上限設定から除外されます。

1. 開講期間が集中・不定期・第3ターム・第6タームの科目
(ただし、全学教育科目は第3ターム又は第6タームに開講する科目に限り上限除外とする。)
2. スタジオ科目
3. 卒業研究関連科目

II. 学部教育科目の履修について

1. 人文社会科学基礎演習および学部共通科目

「人文社会科学基礎演習」は必修科目です。また、他の学科と共通で提供する「学部共通科目」については8ページを参照してください。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考
			必修	選択必修	選択	
基礎演習科目	人文社会科学基礎演習	1	1			
学部共通科目	9 ページを参照					

2. 専門基礎科目

都市社会共生学科で提供する「専門基礎科目」については全科目5単位を必修で履修してください。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考
			必修	選択必修	選択	
専門基礎科目	海外研究基礎論	1	1			
	社会文化批評基礎論	1	1			
	社会分析基礎論	1	2			社会調査士対応【A】
	文化創成基礎論	1	1			

3. スタジオ科目

「スタジオ科目」については、24単位を履修してください。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考
			必修	選択必修	選択	
スタジオ科目	海外研究スタジオ A I	2		3		
	海外研究スタジオ A II	2		3		
	海外研究スタジオ A III	3		3		
	海外研究スタジオ A IV	3		3		
	海外研究スタジオ B I	2		3		
	海外研究スタジオ B II	2		3		
	海外研究スタジオ B III	3		3		
	海外研究スタジオ B IV	3		3		
	社会文化批評スタジオ A I	2		3		
	社会文化批評スタジオ A II	2		3		
	社会文化批評スタジオ A III	3		3		
	社会文化批評スタジオ A IV	3		3		
	社会文化批評スタジオ B I	2		3		
	社会文化批評スタジオ B II	2		3		
	社会文化批評スタジオ B III	3		3		
	社会文化批評スタジオ B IV	3		3		

※なお、配当年次は今後変更も想定されるため、毎年春に配布される時間割表を必ず確認すること。

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択 必修	選択	
	社会分析スタジオ A I	2		3		社会調査士対応【C】
	社会分析スタジオ A II	2		3		社会調査士対応【F】
	社会分析スタジオ A III	3		3		社会調査士対応【G】
	社会分析スタジオ A IV	3		3		社会調査士対応【G】
	社会分析スタジオ B I	2		3		社会調査士対応【C】
	社会分析スタジオ B II	2		3		社会調査士対応【E】
	社会分析スタジオ B III	3		3		社会調査士対応【G】
	社会分析スタジオ B IV	3		3		社会調査士対応【G】
	文化創成スタジオ A I	2		3		
	文化創成スタジオ A II	2		3		
	文化創成スタジオ A III	3		3		
	文化創成スタジオ A IV	3		3		
	文化創成スタジオ B I	2		3		
	文化創成スタジオ B II	2		3		
	文化創成スタジオ B III	3		3		
	文化創成スタジオ B IV	3		3		

4. 卒業研究関連科目

「卒業研究関連科目」については全科目8単位を履修して下さい。

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択 必修	選択	
卒業研究 関連科目	課題演習 A	4	2			
	課題演習 B	4	2			
	卒業研究 A	4	2			
	卒業研究 B	4	2			

5. コモンズ科目

ベーシック科目から8単位以上、アドバンス科目から16単位以上を履修してください。その際、「社会と共生の学び（社会学領域）」（下記の表中で※の付いた科目）の中から、ベーシック科目については4単位以上、アドバンス科目については8単位以上を履修してください。

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択 必修	選択	
ベーシック 科目	国際開発学講義※	1・2		2		【社会と共生の学び (社会学領域)】(※ 印)4科目の中から、 4単位以上を修得す ること。
	都市社会学講義※	1・2		2		
	社会共生論講義※	1・2		2		
	格差社会と社会的包摂講義※	1・2		2		
	都市哲学講義	1・2		2		
	都市日本文化史講義	1・2		2		
	都市文化マネジメント講義	1・2		2		
文化人類学講義	1・2		2			

※なお、配当年次は今後変更も想定されるため、毎年春に配布される時間割表を必ず確認すること。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考
			必修	選択必修	選択	
アドバンス 科目	映像社会論講義※	2・3		2		【社会と共生の学び (社会学領域)】(※ 印)7科目の中から、 8単位以上を修得す ること。
	国際社会学講義※	2・3		2		
	東アジア都市社会論講義※	2・3		2		
	都市政策論講義※	2・3		2		
	地域社会と公共性講義※	2・3		2		
	ジェンダー社会論講義※	2・3		2		
	社会運動論講義※	2・3		2		
	音響文化論講義	2・3		2		
	開発人類学講義	2・3		2		
	空間芸術論講義	2・3		2		
	現代芸術論講義	2・3		2		
	現代都市文化論講義	2・3		2		
	現代ポピュラー文化論講義	2・3		2		
	現代メディア論講義	2・3		2		
	公共政策論講義	2・3		2		
	国際協力論講義	2・3		2		
	国際政治学講義	2・3		2		
	国際政治経済論講義	2・3		2		
	都市文芸文化論講義	2・3		2		
東アジア近現代史講義	2・3		2			

6. 演習科目（ローカル／グローバル科目），関連科目，インターンシップ科目

下記の科目の中から18単位以上を履修してください。その際、(1)演習科目（ローカル／グローバル科目）群からは14単位以上を履修してください。

- (1) 演習科目（ローカル／グローバル科目）
- (2) 他学科・他学部が開講する「関連科目」
- (3) インターンシップ科目
- (4) 8単位を超えて履修したコモンズ・ベーシック科目
- (5) 16単位を超えて履修したコモンズ・アドバンス科目

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考
			必修	選択必修	選択	
演習科目 (ローカル／グ ローバル科 目)	映像社会論演習Ⅰ	2・3		1		
	映像社会論演習Ⅱ	2・3		1		
	エスニシティと共生	2・3		1		
	音響文化論演習Ⅰ	2・3		1		
	音響文化論演習Ⅱ	2・3		1		
	開発人類学演習	2・3		1		
	空間芸術論演習Ⅰ	2・3		1		
	空間芸術論演習Ⅱ	2・3		1		
	現代芸術論演習Ⅰ	2・3		1		
	現代芸術論演習Ⅱ	2・3		1		

※なお、配当年次は今後変更も想定されるため、毎年春に配布される時間割表を必ず確認すること。

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備 考
			必修	選択 必修	選択	
演習科目 (ローカル／グローバル科目)	現代都市文化論演習Ⅰ	2・3		1		
	現代都市文化論演習Ⅱ	2・3		1		
	現代ポピュラー文化論演習	2・3		1		
	現代メディア論演習	2・3		1		
	国際社会学演習Ⅰ	2・3		1		
	国際社会学演習Ⅱ	2・3		1		
	コミュニティ開発演習Ⅰ	2・3		1		
	コミュニティ開発演習Ⅱ	2・3		1		
	政治学演習	2・3		1		
	都市社会学演習Ⅰ	2・3		1		
	都市社会学演習Ⅱ	2・3		1		
	都市人類学演習	2・3		1		
	都市哲学演習Ⅰ	2・3		1		
	都市哲学演習Ⅱ	2・3		1		
	都市文芸文化論演習Ⅰ	2・3		1		
	都市文芸文化論演習Ⅱ	2・3		1		
	東アジア都市社会論演習Ⅰ	2・3		1		
	東アジア都市社会論演習Ⅱ	2・3		1		
	紛争と共生	2・3		1		
	メディアと共生	2・3		1		
	ヨーロッパ都市文化史演習Ⅰ	2・3		1		
	ヨーロッパ都市文化史演習Ⅱ	2・3		1		
	横浜都市文化史演習Ⅰ	2・3		1		
	横浜都市文化史演習Ⅱ	2・3		1		
	コミュニティ論演習Ⅰ	2・3		1		
	コミュニティ論演習Ⅱ	2・3		1		
	ジェンダー社会論演習Ⅰ	2・3		1		
	ジェンダー社会論演習Ⅱ	2・3		1		
	政治社会学演習Ⅰ	2・3		1		
	政治社会学演習Ⅱ	2・3		1		
インターン シップ科目	インターンシップ A	2・3・4			2	
	インターンシップ B	2・3・4			2	
関連科目	イノベーション思想史Ⅰ	2・3			1	
	イノベーション思想史Ⅱ	2・3			1	
	合意形成論	3			1	
	社会環境リスク共生概論 A(都市環境)	2・3			1	
	リスク共生社会基礎論	2・3			1	
	西洋建築史Ⅰ	2・3			1	
	西洋建築史Ⅱ	2・3			1	
	都市計画とまちづくりⅠ	3			1	
	都市計画とまちづくりⅡ	3			1	
	都市交通計画	3			1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考
			必修	選択必修	選択	
関連科目	途上国における都市づくりⅠ	3			1	
	途上国における都市づくりⅡ	3			1	
	都市環境設備計画Ⅰ	3			1	
	都市環境設備計画Ⅱ	3			1	
	都市環境リスク共生論 B	2			1	
	土木史と文明Ⅰ	2・3			1	
	土木史と文明Ⅱ	2・3			1	
	日本建築史Ⅰ	2・3			1	
	日本建築史Ⅱ	2・3			1	
	人間生活と建築計画Ⅰ	2・3			1	
	人間生活と建築計画Ⅱ	2・3			1	
	合意形成とリスクⅠ	3			1	
	合意形成とリスクⅡ	3			1	
	高齢社会とリスク B	2			1	
	ランドスケープ論Ⅰ	2・3			1	
	ランドスケープ論Ⅱ	2・3			1	
	グローバル・エコノミー入門	2・3			2	
	国際法	2・3			2	※隔年
	マクロ経済学入門	2・3			2	
	ミクロ経済学入門	2・3			2	
	法学入門	2・3			2	
	現代社会福祉	3			2	
	経営戦略論	3			2	
	国際経営論Ⅰ	3			2	
	国際経営論Ⅱ	3			2	
	雇用社会論	2・3			2	
産業社会論	2・3			2		
NPO 論	2・3			1		

※なお、配当年次は今後変更も想定されるため、毎年春に配布される時間割表を必ず確認すること。

社会調査士の資格取得について

1. 社会調査士資格について

社会調査資格は、一般社団法人社会調査協会が認定する公的資格です。社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会現象等をとらえることのできる能力を有する「調査の専門家」を養成することを目的として作られました。

社会調査資格には、「社会調査士」（4年制大学学部生対象）と「専門社会調査士」（大学院生対象）の2種類があります。都市社会共生学科では、このうち「社会調査士」の資格を取得することができます。

2. 社会調査士の資格取得カリキュラムについて

社会調査資格は、資格試験を受験して取得する国家資格ではありません。社会調査士カリキュラム A～G（E/Fは選択制）に対応した科目を履修し、単位を修得した学生が、社会調査協会に申請することで認められる資格です。関連する科目は、以下の通りです。

授業科目区分	授業科目	履修年次	単位数		社会調査士カリキュラム対応記号	備考
			必修	選択		
専門基礎科目	社会分析基礎論	1	2		A	
学部共通科目	社会調査法 A	2		1	B	(注 1)
	社会調査法 B	2		1		
全学教育科目(基礎科目)	新規設置科目[社会分析のための統計基礎] (申請中)	1～4		2	D	
スタジオ科目	社会分析スタジオ A I	2		3	C	(注 2)
	社会分析スタジオ B I	2		3		
	社会分析スタジオ A II	2		3	F	(注 3)
	社会分析スタジオ B II	2		3	E	
	社会分析スタジオ A III	3		3	G	(注 4)
	社会分析スタジオ B III	3		3		
社会分析スタジオ A IV	3		3			
社会分析スタジオ B IV	3		3			

(注1) 「社会調査法 A」と「社会調査法 B」は、必ず両方履修してください。

(注2) 「社会分析スタジオ A I」と「社会分析スタジオ B I」は、どちらか一方を履修することで要件を満たします。なお、「社会分析スタジオ A」は質的研究を、「社会分析スタジオ B」は量的研究を対象としています。

(注3) カリキュラム対応記号 E と F は選択制になってますので、どちらか一方を履修することで要件を満たします。

(注4) 「社会分析スタジオ(A/B) III」と「社会分析スタジオ(A/B) IV」は、必ず両方履修してください。

3. 社会調査士取得要件・申請方法

大学卒業時に取得可能な「社会調査士」資格と、在学中に申請可能な「社会調査士(キャンディデート)」があります。それぞれの取得条件は以下の通りです。申請方法については、取得希望者向けのガイダンス(3年次および4年次)にて説明する予定です。なお、資格の取得に際しては、審査・認定手数料がかかります。

社会調査士

1. 学部を卒業
2. 社会調査士カリキュラム A～G（E/Fは選択制）に対応した科目を在学中に修得すること。

社会調査士（キャンディデイト）

1. 在籍期間が2年以上であること
2. 申請時まで、社会調査士カリキュラム A～G（E/F は選択制）に対応した科目を3科目以上単位修得していること
3. 2の単位修得済み科目と申請する年度履修中の科目の合計が5科目以上であること（ただし「社会調査法 A」及び「社会調査法 B」は両方合わせて履修のため、その場合は6科目以上と数える。E/F は選択制のため1科目と数える。）

4. 備考

社会調査士に関する詳細は、社会調査協会のウェブページで確認することができます。

一般社団法人社会調査協会 HP URL : <http://jasr.or.jp/>

